

弔辞・宮城正雄さんを送る

学園花の村代表 池守幸一



在りし日の宮城正雄さん
写真は99年11月発刊の「みんなでやろう小さい農業」より転載



学園花の村機関紙第 6 号

2012年4月3日(火)

編集兼発行人 伊藤公博

報徳を深く学ばせ、鋭い洞察力を身につけていたのです。日本一の報徳人でした。

宮城さん あなたは農業の再生に経済競争に疲れた都会の人たちの力を活用しようと考えました。その呼びかけに応じて私は十五年前、宮城さんを頼って神奈川でのサラリーマン生活をやめこの地で農業を始めたのです。私は宮城さんの呼びかけに応じた第1号でありました。その後宮城さんはそういう人たちと共に「学園花の村」を作ります。今から15年前、平成10年のことです。80才のこの宮城さんの活動力はきわめて旺盛です。掛川の光陽というところに12町歩の農場、一大市民農園を開きました。ここは農業を使わない有機農業に限定した、たぶん日本では唯一の市民農園です。宮城さんの努力はまだ続きます。

掛川の倉真と初馬の間にある里山をほとんど自力単身で開発して「倉馬の里」という団地を作られました。平成17年、宮城さん89才のことです。

宮城さんはまるで青年のように一途でありました。その主張には荒けずりなところも一部ありましたが一途でした。その一途さが多くの人たちの心を打ちました。今日、日本の再生のための処方箋として様々な考え方がいわれています。そのひとつが農業などを軸とした内需の掘り起こしによる日本再生です。宮城さんのこの20年の足どりは

まさにここに一致します。宮城さんは普通の農家のおじいさんですが、すごい事です。

私たちは、宮城さんあなたが全身全霊をもってさし示した、まさにその方向を目指していっしょに歩んでいきます。生命が大切にされ、自然の循環が尊重され、全ての生き物が大切にされ、農業が大切にされる方向に、宮城さんあなたが願った日本再生の道があると信じます。宮城さん 長い間御苦勞様でした。ありがとうございました。

宮城正雄略歴

- 大正5年11月3日 宮城竹次郎、のぶの長男として誕生。
- 昭和7年 私立双松学舎卒業 報徳を学ぶ
- 同 11年 近衛歩兵第一連隊入隊 十三年六月除隊
- 同 5年 6月近衛歩兵第三連隊応召 二宮翁夜話を手に出征、中支・南支・仏印・マレー作戦を始めシンガポール、スマトラ・ビルマ転戦。終戦、8月29日現地独立運動参加のため脱走、逮捕・投獄、起訴猶予釈放。英軍の使役一年八ヶ月
- 同 22年 12月 帰還 九年四十日の軍隊生活終わる
- 同 23年 4月 渡辺ふくと結婚 以来農業に従事
- 同 63年 スマトラ島バイユ回教寺院(モスク) 建立
- 同 64年 古谷報徳社社長就任
- 平成4年 3月 慰霊の写真観音建立
- 同 5年 報徳文化村構想発表
- 同 10年 学園花の村設立
- 同 17年 倉馬の里設立支援
- 同 20年 クラインガルテン モデル建設計画
- 同 24年 2月7日 逝去 享年95歳

TEL・FAX
(042) 636-8291
E-MAIL
mitoh@alto.ocn.ne.jp